



平成 29 度

アンケート調査 (せきのまちづくり通信簿) 調査結果

【結果報告書・概要版】

調査の目的

「平成 29 年度アンケート調査 (せきのまちづくり通信簿)」は、平成 30 年度から始まる第 5 次総合計画 (41 施策) の市民満足度を把握するとともに、まちづくりに関する市民の意識を今後の施策に生かすことを目的として実施しました。

調査の概要

- 調査対象者 平成 29 年 11 月現在、関市に居住している 16 歳以上の市民 3,000 人
- 調査期間 平成 29 年 11 月 14 日から 11 月 30 日まで
- 回収方法 調査票による本人記入方式
郵送による配布、郵送による回収
- 回収結果 1,311 票 (回収率 : 43.7%)
- 報告書の見方

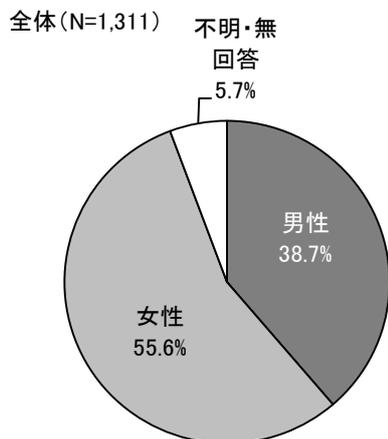
- ・グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。
- ・グラフ中の「%」は、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問 (1 つだけに ○をつけるもの) であっても、合計が 100%にならない場合があります。

1

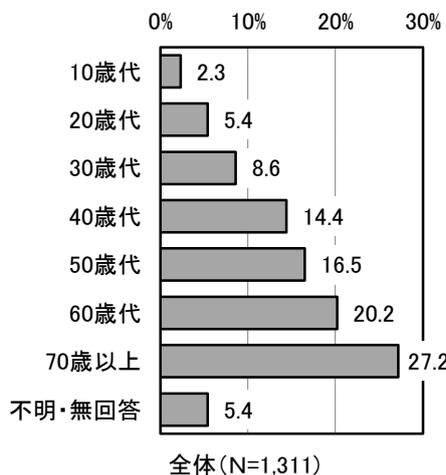
回答者の属性

回答者の性別は、女性がやや多く、回答者の年齢は 70 歳以上が最も多くなっています。また、回答者の居住地区は「関地域」で 76.8%と高くなっています。

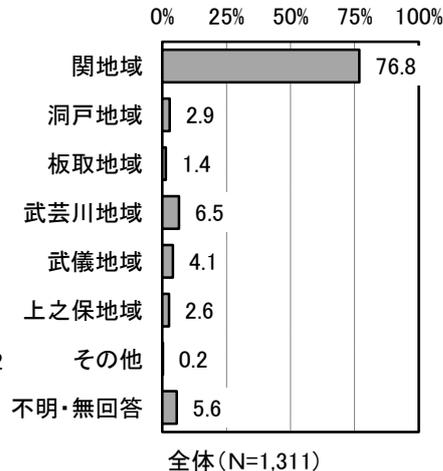
●回答者の性別



●回答者の年齢



●回答者の居住地区

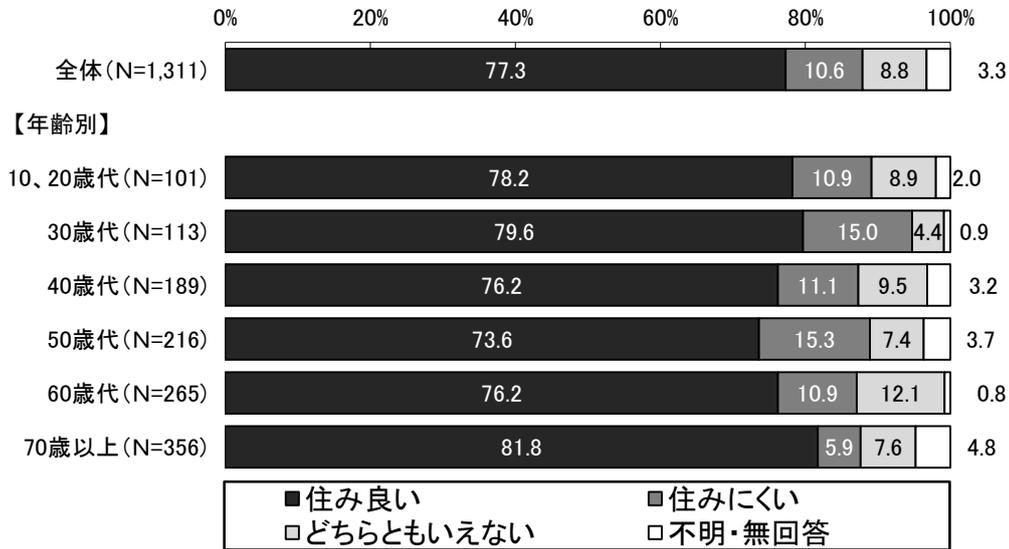


2

関市への居住意向について

回答者の77.3%が、関市を「住み良い」と感じています。年齢別でみると、いずれの年代でも『住み良い』が高くなってはいますが、30歳代、50歳代ではやや『住みにくい』と回答する割合が高くなっています。

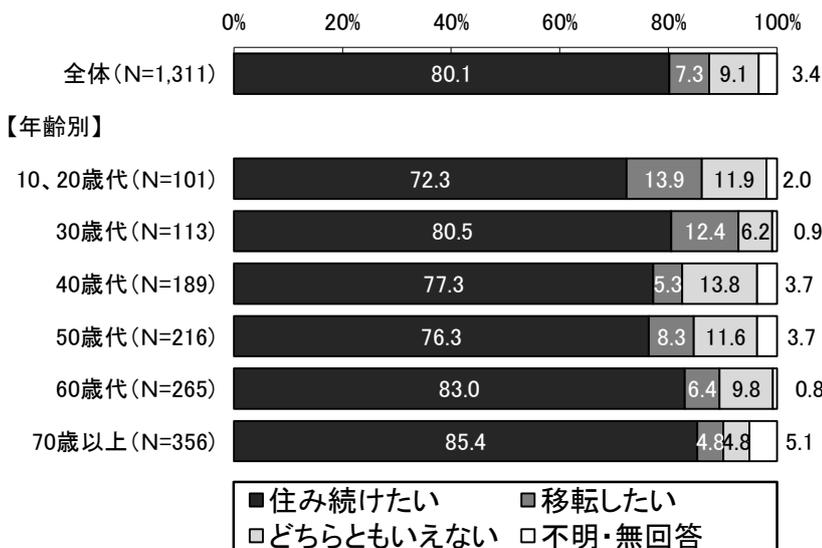
●あなたは関市が住みよいまちだと感じるか



※『住み良い』は「住み良い」と「どちらかといえば住み良い」の合算、
『住みにくい』は「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」の合算。

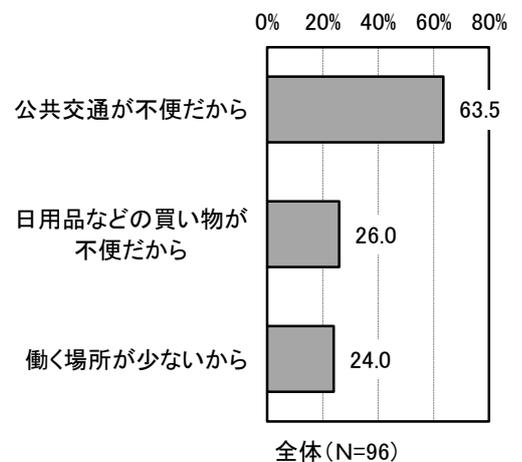
関市への居住意向については、全体の80.1%が『住み続けたい』と回答しています。年齢別でみると、30歳代、60歳代、70歳以上で居住意向が高く、8割を超えています。また、『移転したい』と回答した人にその理由をたずねたところ、「公共交通が不便だから」「日用品などの買い物不便だから」「働く場所が少ないから」と回答する割合が高くなっています。

●あなたは今後も関市に住み続けたいと思うか



●移転したいと感じる理由<上位3位>

(※『移転したい』を選んだ方)



※『住み続けたい』は「ずっと住み続けたい」と「当分は住んでいたい」の合算、
『移転したい』は「できれば移転したい」と「すぐにでも移転したい」の合算。

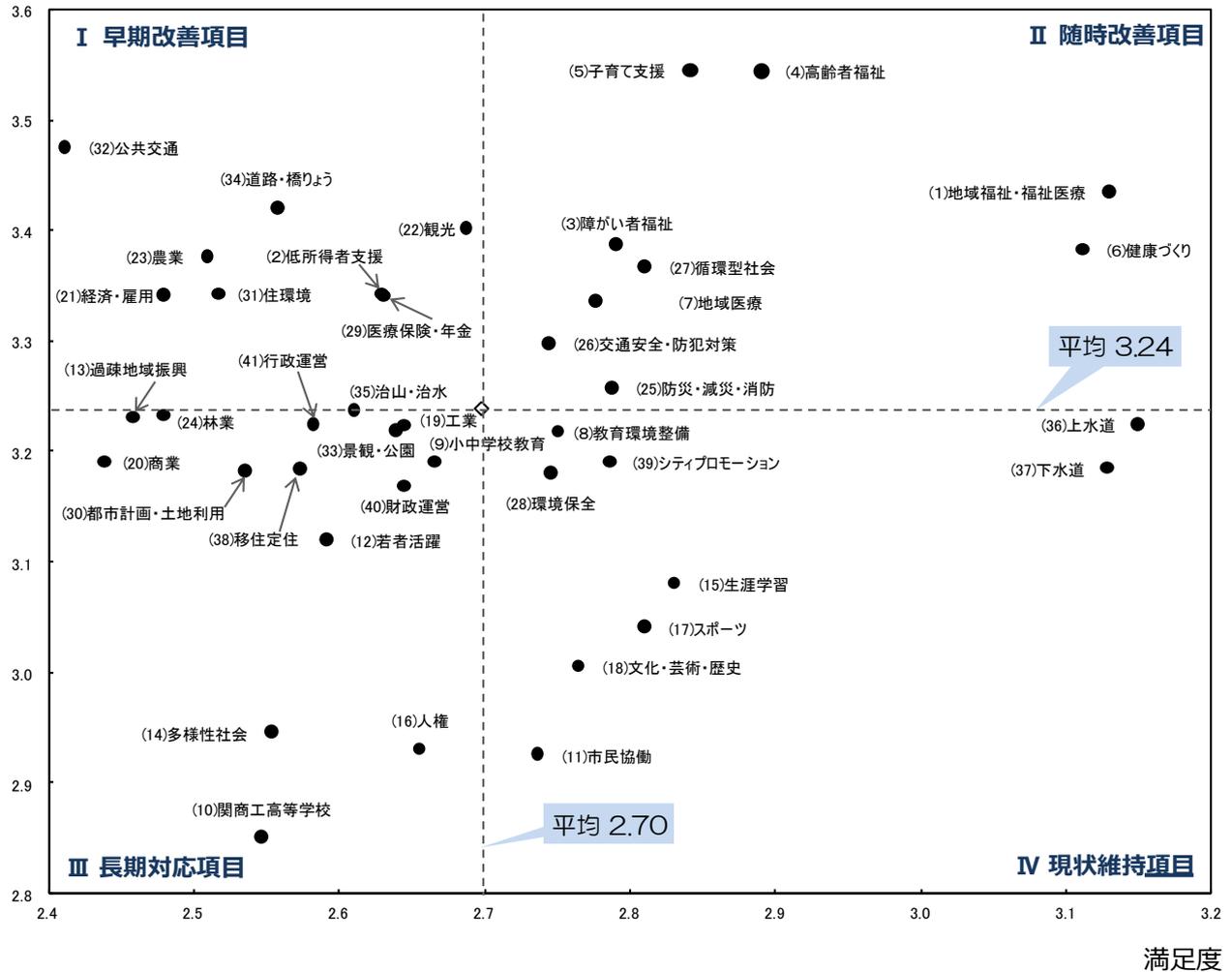
3

施策の満足度・注力度について

施策の満足度、注力度（市として積極的に推進すべきかどうか）は次のようになっています。

● 施策の満足度・注力度のポートフォリオ分析

注力度



【注力度と満足度の関係】

<p><タイプⅠ> 早期改善項目（注力度は高いが、満足度は低い） ⇒現在の施策や事務事業を優先して改善・注力すべき施策の分野</p>	<p><タイプⅡ> 随時改善項目（注力度が高く、満足度も高い） ⇒事業費が過大となっていないか点検するとともに、さらなる事業の効率化を検討する施策の分野</p>
<p><タイプⅢ> 長期対応項目（注力度が低く、満足度も低い） ⇒施策の重要性に対する認知を高めるとともに、取組の方向の改善を検討する施策の分野</p>	<p><タイプⅣ> 現状維持項目（注力度は低く、満足度が高い） ⇒今後も着実に事業の推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高める施策の分野</p>

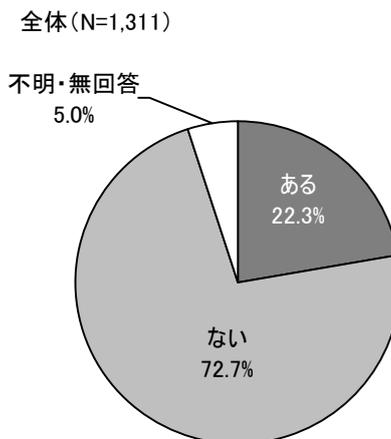
タイプⅠ【早期改善項目】に分類される施策には、「32 公共交通」「34 道路・橋りょう」「23 農業」「21 経済・雇用」などがあがっています。

4

まちづくりへの意識と取組について

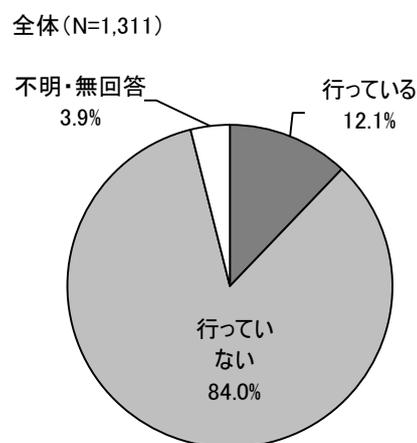
●福祉ボランティア活動への参加経験

福祉ボランティア活動への参加経験については、「ある」と回答した割合が22.3%、「ない」と回答した割合が72.7%となっています。



●地域の子どもの成長を助ける活動について

地域の子どもの見守り活動を行ったり、スポーツを教えたりするなど、地域の子どもの成長を助ける活動について、「行っている」と回答した割合が12.1%、「行っていない」と回答した割合が84.0%となっています。

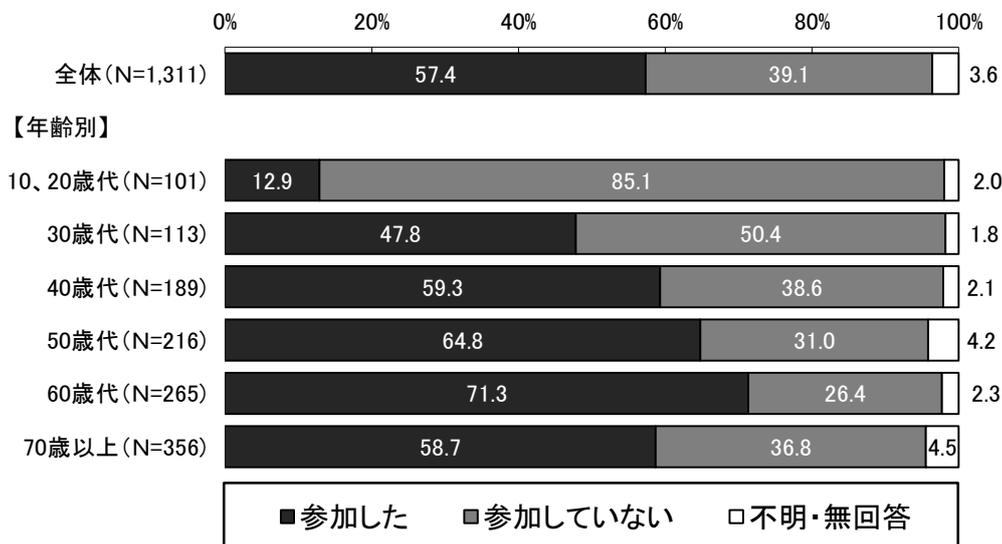


※『行っている』は「行っている」と「時々行っている」の合算、
『行っていない』は「あまり行っていない」と「行っていない」の合算。

●地域(地域委員会や自治会の活動など)への参加経験

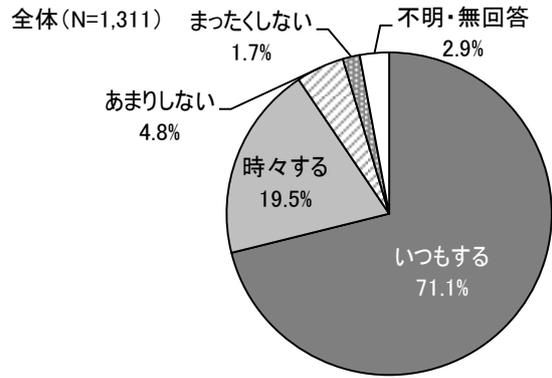
地域活動(地域委員会や自治会の活動など)への参加経験について、全体では「参加した」と回答した割合が57.4%となっています。

年齢別にみると、10、20歳代で「参加していない」と回答した割合が85.1%と、他に比べて高くなっています。また、30歳代から60歳代にかけて、年代があがるにつれて「参加した」と回答した割合が高くなっています。



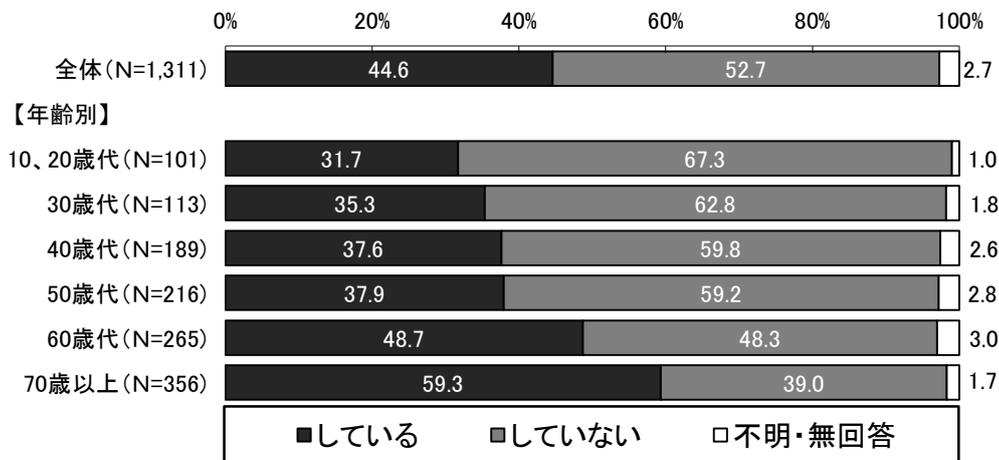
●市内での日常生活用品の買い物について

市内での日常生活用品の買い物について、「いつもする」と回答した割合が71.1%と最も高くなっています。次いで、「時々する」と回答した割合が19.5%、「あまりしない」と回答した割合が4.8%となっています。



●地震や火災などの災害に対する備えについて

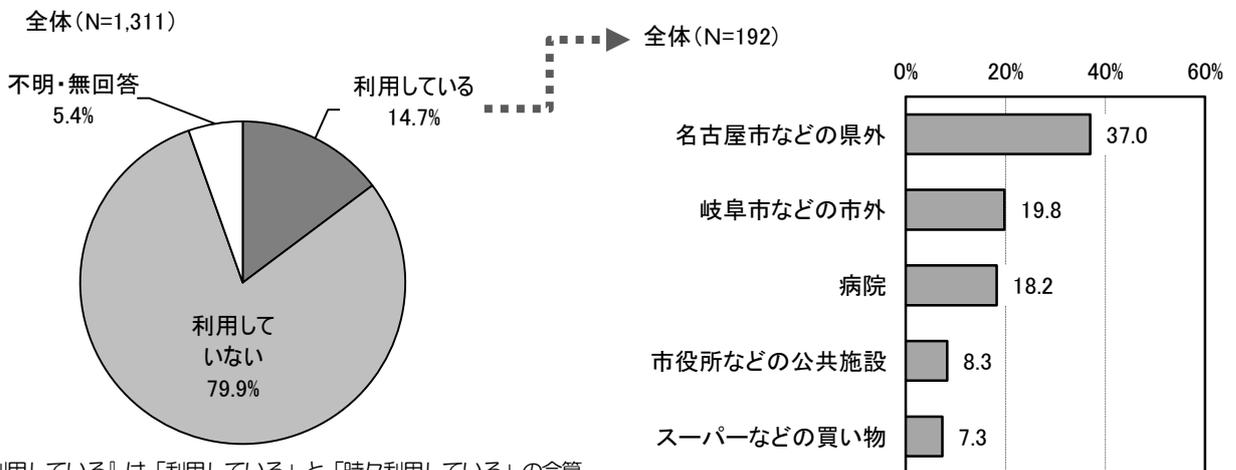
地震や火災などの災害に対する備えについて、全体の52.7%が「していない」と回答しています。年齢別にみると、年齢が上がるにつれて、「している」と回答した割合が増加しており、70歳以上では「している」と回答した割合が59.3%となっています。



※『している』は「している」と「どちらかといえばしている」の合算。
『していない』は「どちらかといえばしていない」と「していない」の合算。

●公共交通を利用して主にどこに行くか(※「利用している」を選んだ方) <上位5位>

市の公共交通の利用について、「利用している」と回答した割合が14.7%、「利用していない」と回答した割合は79.9%となっています。また、公共交通を利用して行く場所では「名古屋市などの県外」が37.0%と最も高く、次いで「岐阜市などの市外」が19.8%、「病院」が18.2%となっています。

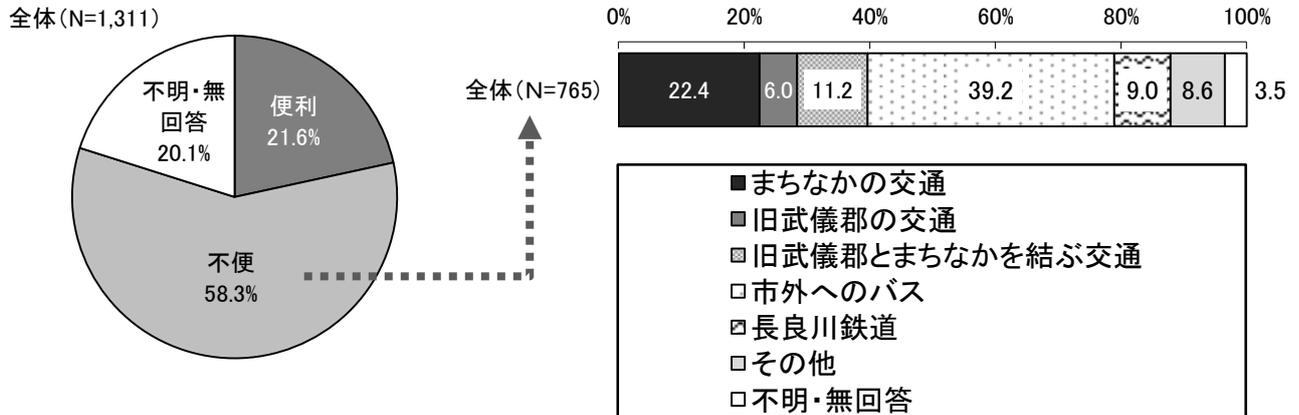


※『利用している』は「利用している」と「時々利用している」の合算。
『利用していない』は「あまり利用していない」と「利用していない」の合算。

●市の公共交通の便利性について、具体的に不便に感じているところ(※『不便』を選んだ方)

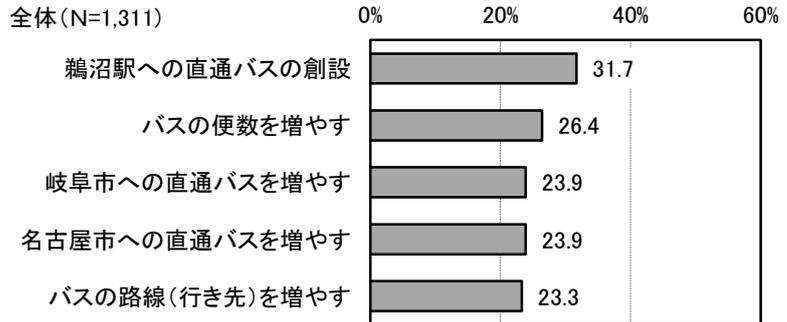
市の公共交通の便利性について、全体では「便利」と回答した割合は 21.6%、「不便」と回答した割合は 58.4%となっています。

市の公共交通の便利性について、具体的に不便に感じているところは、「市外へのバス」と回答した割合が 39.2%と最も高くなっています。次いで、「まちなかの交通」が 22.4%、「旧武儀郡とまちなかを結ぶ交通」が 11.2%となっています。



●市の公共交通を改善するためにはどうしたらよいと思うか<上位5位>

公共交通の改善策については、「鵜沼駅への直通バスの創設」と回答した割合が 31.7%と最も高く、次いで「バスの便数を増やす」が 26.4%、「岐阜市への直通バスを増やす」「名古屋市への直通バスを増やす」がともに 23.9%となっています。



●市政に関する情報源について<上位5位>

市政に関する情報源について、「広報せき」と回答した割合が 83.9%と最も高く、次いで「町内会回覧板」が 47.3%、「新聞」が 32.0%となっています。

